

令和6年度石川県スポーツ推進審議会 議事録

日 時：令和6年11月25日（月）14：30～15：30

場 所：県庁11階 1109会議室

出席者：委 員 北山会長（県スポーツDr.協会会長）以下14名

事務局 竹沢部長、戒田次長、北川次長、江野課長、瀬戸課長、各G.L

（開会、部長挨拶、会長挨拶）

（1）スポーツ振興の取り組み状況と今後の方針（江野課長説明）

（2）休日部活動の地域移行の取り組み状況と今後の方針（瀬戸課長説明）

（以下、委員からの意見・質疑応答）

【北山会長】

ありがとうございました。ただいまの報告についてご意見等がございましたら、発言をお願いしたいと思います。

【尾山副会長】

駅伝が低迷しているとあります。これは全国放送されますので、毎年悔しい思いをして見ていますが、もう少し強化できないものですか。

【竹沢部長】

確かに副会長がおっしゃるように、おそらく駅伝だけだと思います、北海道から沖縄県までの都道府県対抗で、トーナメントのように勝ち上がってていくわけではなく、スタートからゴールまでを一回で競う競技というのは、いつも以上に都道府県対抗という意識が強くなり、寒い時期にやっていくので、県民の皆様もご自宅でテレビを見る機会が多く、そういった競技であると思います。県議会でも同じようなご指摘があり、もう少し強化できないのかと、一時は中学生の成績がよかつた時期があります。現に今もここに書いてあるような40位台ではありません。2つあります、駅伝に限った話ではありませんが、1つは他の県の有力な高等学校に有望な選手が進学しているということと、裾野が広がっていないとい

うこともあり、高校へ進学した際、次のステップに行かれた際に競技を断念される、そういった方も多いとお聞きしており、そういった現状がございます。

我々も長い期間取り組んできておりますけれども、陸上協会にお願いして、従来は長距離部会の中にあえて駆伝グループを作っていたいただいて、駆伝強化を専任でやっていただいているということや、できるだけ多くの方を指定して合宿をしていただいている。京都の予選会が文化の日に開催されましたが、はじめて金沢学院大学附属高等学校が優勝されました、裾野が広がってきたと感じていますので、もう少し長い目で見ていただいて、我々も問題意識を持ってやっておりますので、またよろしくお願ひいたします。

【田中委員】

今年度から、当協会の事務局が社会福祉会館からいしかわ総合スポーツセンターに移転しまして、事務局の人数も増えました。ありがとうございます。

そういったこともありますて今後、パラスポーツの推進という点で色々と見えてくると思います。その中で、毎年言っていますが、金沢マラソンは県内的一大イベントだと思います。金沢マラソンにおいて車椅子の参加がずっとできなかつたと、今年はファンランということで車いすの参加が認められましたが、我々が練習しているレーサー部門がませていただけない。今年は足こぎで参加していたと聞いているが、それは何だということで我々の仲間からも意見があった。金沢マラソンも10回目になりましたが、1回目から言っています。東京オリンピック・パラリンピックがあった際に何とかできないかとありましたが、コロナ禍の中で新しいことができませんでした。やはり機会がないと車椅子マラソンの競技者がだんだんと減っていく。せめて金沢プールからゴールまでの約10kmぐらいの距離を走らせていただきたい。運営する方も車椅子が参加することによって、安全面とかいろいろな面で課題が出ますが、我々もお手伝いができますので、できれば来年度から日ごろ練習しているレーサー部門で走らせていただきたい。道路は排水の関係でかまぼこ型になってセンター高になっています。端を走るとマスにはまってしまう。そのために直進性のあるレーサーというのがあります。富山マラソンは1回目から走っています。ぜひそう言ったところも含めて、よろしくお願ひします。

【北川次長】

今ほどの意見については、組織委員会でも話題になっています。コースの安全性が確保できないのではないか、そういう不安があるということで開催できていないが、関係者の声をさらに吸い上げながら、組織委員会の中でも提案いただいて、検討していただくという方向で進めていきたいと思います。

【竹沢部長】

できないことをできない理由をもってやめるのではなくて、どうしたことならできるのかというところから考えていきたい。まずは能動的に、危ないということだけでなく、どうしたらできるのかというところから、我々も議論に参加させていただきたい。

【丸山委員】

私の方からは競技スポーツのお話をさせていただきます。競技力が全体的に伸び悩んでいると資料から読み取れます。要因として若手指導者の養成が急務という点と他に要因分析はありますでしょうか。また、競技団体や現場の指導者は、いしかわスポーツ医科学情報センターに期待している部分は大きいですが、実施状況等について、どれくらい機能しているかどうかお聞きしたいと思います。さらにはアスリートの発掘は課題であって、各県でもスーパー・キッズの発掘であるとか、体力測定等をしているということをお聞きしておりますが、石川県では、タレント発掘・アスリート発掘という点でどのようになされていますでしょうか。

【北川次長】

はじめに入賞者数の伸び悩みについて、若手のみならず、ベテランの方々も一線を離れていくということで、強化に向けて指導者の確保も難しくなっている競技団体も徐々に増えてきていると聞いています。そういう状況の中で、今年度新たにスポーツコーチの養成をスタートさせました。これは県内の競技団体から推薦を受けた10名に対して、包括連携協定を締結した日本体育大学の先生を中心に講師に迎え、指導者の養成に努めています。医科学情報センターの実施状況については、昨年の7月から実施しているが、今年は170名の各競技団体のトップレベルの選手を指定して、体力測定だけではなく、動作を見て体の弱点やケガしやすい部分がないのかなど、そういうことを中央の団体と協力して12月か

ら一斉に測定していきましょうといった取り組みも具体化しています。それに加えて、監督、選手、保護者が協力していただけないかということで、一人一人にアプリを活用したコンディショニングの確認を行い、とにかく怪我のないよう、また、狙った大会で成績を収めることができるよう、そういった取り組みを行っています。

そのほか、本県のスポーツ推進計画にもありますが、女性アスリートへの支援ということで、中央の産婦人科医をお招きして、シンポジウムを開催する予定としている。

医科学センターも常勤は2人でまだまだこれからであり、各競技団体に情報発信しながら、できるだけ競技力の向上に努めていきたいと思っております。

【竹沢部長】

医科学情報センターに際しまして、私もナショナルトレーニングセンターの視察もさせていただきました。いしかわ総合スポーツセンターのトレーニングルームも昨年12月更新させていただきましたが、ナショナルトレーニングセンターで使用している器具も導入させていただきました。先方のセンター長も知事と近しい方でありますので、今回のパリオリンピックでレスリングやフェンシングがどうして躍進できたのかなど、色々とお話を聞かせていただいたりしました。そのまま石川県に移行するということはなかなか難しいですが、そういった国の知見も使わせていただきながら取り組んでいただきたい。

【北川次長】

タレント発掘については、従来、小学生を対象に能力測定ということで民間企業と連携し、昨年度取り組んできたが、今年度については、小学生の高学年、中学生、高校生1年生に対象を広げて、金沢と小松で開催させていただきました。諸課題もあり、先ほど部長からもお話がありましたハイパフォーマンススポーツセンターの知見も取り入れながら、よりよくなるように来年度以降も取り組んでいきたいと思っております。

【北山会長】

競技スポーツの振興、裾野の拡大、パラスポーツの振興、その次に地域移行のご報告もありました、これについてもご意見を伺いたいと思います。

【野口委員】

会長から、部活動の地域移行のお話もありましたので、お伺いしたい点と意見を述べさせていただきたいと思います。自分の実感として、この地域移行については、全国的に苦戦しているなというところが実感です。まずははじめに移行期間、推進期間、今どうも国の方では、3年間で推進して、その後1年間をかけて推進期間における取組を検証して、次のステップに移行していきましょうというふうに考え方かわりつつあるなと思っております。そのもとには、地域移行から地域連携に変わりつつあるかなと思っています。

また、その先には、学生指導要領の改訂があって、その中で部活動の地域移行の表現がどうなっていくのかなと我々も注目をしています。

ご説明を瀬戸課長からちょうどいしましたが、石川県の方で一生懸命モデルを作っていたら、実証事業の成果と課題がまとめられております。資料の説明はいいなと思いますけれども、課題の3点を県としてどうしていくのか、知りたいと思っております。今日の朝もテレビで拝見しましたが、やはり一番の問題になってくるのは財源の問題であると思っています。ある県ではふるさと納税の一部を活用すると報じられていましたけれども、各都道府県の教育委員会の方向が定められて、アピールとして出しておられますけれども、動きが見えたらしいねと、先日も19市町の教育長と話をしておりましたが、もっともっと県の動きが見えたらしいねと、グループ別の協議会でどんなこと行われて、どんな話がなされているのか、その先どんなふうに向かっていくのか、見えない部分があって教育長たちも心配されていました。見える化、地域移行をしていったときに、指導者の資質向上が求められますので、そういう研修が必要でないのか、そういうところを県主催でやっていただけると、一律で物事が進んでいくのではないかと思っております。また、兼職兼業の話も出ておりましたけれども、勤務先の市町でなくて、別の市町で行う場合の周知徹底などもあった方がいいのではないかと、結構要望があったかと思います。

お取り組みいただいている内容は非常に理解をしておりますけれども、アピールをして、石川県頑張っているぞという方向が見えるといいなということをお伝えさせていただきたいと思います。

【瀬戸課長】

教育委員会としては、野口教育長がおっしゃったように各市町でまず

動くということで、地域によって実情が異なりますので、地域によって競技が活発にやっているところもあれば、そうでない地域もあったり、また、指導者の問題であったり、地域のスポーツ協会の有無など、いろんな問題があります。今、財源の問題、受益者負担にするのか、市町負担にするのか、あるいは地域移行する団体を設けて、そちらで運営していくのか、いろんな形があると思います。その辺りについても少し歩み始めたところで、検証をしながら、どのような形がその地域にとっていいのかということも考えているところです。今、ブロック協議会を始めたというのは、一つの市町ではなかなか解決できない問題が多いことから、周りの市町と手を取り合って、そこで解決できるものはないかということも模索しながらということで、今年6月には全体で開催しましたが、今回はもう少し範囲を狭めながら、能登地区・加賀地区ということで開催し、一つ一つつながりが大事であると思いますので、そこで色んな課題が出てきて解決に向けて進んでいくのではないかなど考えております。そのうえで我々も一緒になって考えていくという方向で進んでいきたいと考えています。

【野口委員】

市町の教育長も県と一緒に頑張っていきたいと思っておりまして、今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

【森山委員】

今ほどの地域移行に関する財源ですか、受益者負担、指導者の確保について、私が耳にしている情報、私自身も感じていることをお話ししたいと思います。財源については、夏過ぎに令和6年度は46億の予算が令和7年度には60億になるという報道もありましたが、どこに使われていくのか非常に興味があります。実際に外部の指導者が教えて、こんな問題が出てきたなと感じたことがあります。普段教えて、県大会で勝って全国大会の出場権を獲得した、ところが誰が引率して、予算はどこから出るのか、というような問題が出てくると、保護者が監督することも可能とお聞きしておりますけれども、近隣の富山・福井、北信越であれば、保護者が子どもを連れていけば、大会に行けば、そこまで負担にはならないと思いますが、東北、北海道、九州、沖縄となれば、受益者負担・自己負担となれば、とてもじゃないが保護者は持たないと、それから保護者が監督を務めるとなっても仕事を休まないといけないとなりますので大変になってくる、こういった問題があるということを、しっかり把握した上で進

めていただきたいと思いますが、現時点で何か進展があれば、お聞かせ願います。

【瀬戸課長】

大会の在り方、どのようなチームを編成していくかということも含めまして、日本中体連が検討していくものであると思う。先日、日本中体連から全中大会を今後行わないということを発表した団体もあったかと思います。競技団体として何か大会を続けていく際には、子どもたちが活躍していく場がどのようにあるかということで、考えていくことになるかと思います。今、部活動の地域移行ということで、学校としての部活動がありますけれども、地域のみんなで活動を作り上げていくということになつていて思ひますので、その辺りについても皆さんで考えながら進んでいくのではないかと思っております。

【大茂委員】

先週、中体連の研究会の全国大会が石川県で開催されました。その中でも議題の一つとして取り上げられております。色々な動きがあるので、今後出てくるかなとは思いますが、石川県内の現状としては、石川県内の各種大会には地域スポーツクラブは大会に参加しております。年々申請が増えておりまして、今年は64団体が参加しています。そのうち、名簿を提出して参加したのが46団体で、上位に進出したチームもあります。日本中体連の方向性としては、あくまでも学校教育活動の一環としての部活動、なにか最初の議題とは矛盾してしまいますが、やはり強化を目的とした地域団体ではなくて、あくまでも学校教育活動の生徒たちの受け皿として裾野を広げているという形になつていて、やはり全国大会等については各競技において細則が定められており、こういったチームであれば参加しても良いということになっておりまして、競技毎に異なることもありますし、手を挙げてもなかなかその団体が上位大会に進出できないといった課題等もあります。また、先生としても地域のクラブに関わっていきたいと思っている方もいらっしゃいますが、日常の勤務との兼ね合い、先ほど出ました兼職兼業との兼ね合いや怪我をした場合の補償、学校の部活動でしたら学校が入っている保険で大丈夫ですが、それ以外の場所で怪我をした場合の補償、あとは責任問題など、各県ごとに悩みながらも、少しずつ進行しているといったところです。

【北山会長】

時間も迫ってまいりましたが、ご発言されていない方でご意見がありましたらお願ひいたします。

【笠原委員】

私の考えというか、感じ方で申し訳ないですが、今年は大きな震災がありまして、今日いただいている課題についても想定外のことがあって色々大変かと思いますが、計画を少しずつ推進していくことで理解しておりますが、何かやはり難しいこと、震災があってこうしなければいけないということで、気づいていない部分があれば教えていただきたいと思います。どういう出来事ということは申し上げられませんが、何か知っておくべきことがあればお聞かせ願います。

【竹沢部長】

二つあると思っております。一つは環境であります。皆様ご実感いただけると思いますが、避難所は基本的に体育館となっている。体育館が地域の方でいっぱいになって、小規模な災害であると1週間2週間で体育館は空きますが、ご案内のとおり、概ね峠を越えたのは、6月か7月の時分なりましたので、体育館が使えない、今も使えない体育館があることと、仮設住宅、不幸にも豪雨災害で水が付きましたけれども、ご案内のとおり能登地域は平地が少なく、海のそばまで山が迫っている地域が多いですから、小中学校のグラウンドというのは仮設住宅をつくるには絶好の平場です。そういういた避難者のお世話のために子どもたちの運動をするためのベースである体育館とグラウンドが災害対応のために使えないということです。市や町の体育館であったり、陸上競技場であったり色々なところがあるのではないかということもありますが、やはり市町の体育館もそもそも被災をしていたり、支援物資の倉庫になっていたり、これもまた使えないということで、スポーツをする環境が非常に悪いということが一つ、もう一つは、もともとが少子高齢化が進んでいる地域でありましたから、通常のサッカーにしても、その地域で人数が確保できない、そういういた学校もありましたので、もともと広域で町単位で一つのチームを作つて、例えば、穴水の方々は七尾の和倉に立派な人工芝のコートがありましたから、そういういたところにきて練習をしていたと、ただ、そのサッカー場も波打つように壊れ、まだ直っていませんので、そういういた方々のサッカーをする場所もないということです。チームとしても避難をし

て、なかなか編成できなかったり、これまで何とかかろうじて野球チームができたのに、金沢に転校してしまったためにチームが編成できなかったりと、報道された部分されなかつた部分含めて、子どもたちに相当、スポーツの環境を阻害する要因が多かったと、一方で、能登町はソフトテニスのメッカですけれども、避難先でしっかりとトレーニングし、被災にめげずに佐賀の国スポで立派な成績を残したチームもあります。一概に、被災があったからみんなが下を向いているということではありませんが、子どもたちのスポーツの環境が、当たり前のように我々も思っていましたが、相当制約されていると実感したところです。大人の人も動けるようになって、スポーツをさせていただくそんな動きも徐々にではありますが再開しております。そういったところが、ここ1年弱の能登のスポーツ環境ではないかと思います。

【北川次長】

震災があつてから、能登地区の方では、スポーツ関係者が県外から出入りしている。ただ、地元の声としては、スポットで入るイベントよりも、これからは継続した運動支援を行っていただきたいと、これは児童・生徒、高齢者も含めて、これから寒い冬を迎えるにあたって、運動する機会が少なくなってくるということで、そういった支援を各市町の被災地の方々が感じています。それにあわせて我々も何かできないかということを検討している状況です。

【北山会長】

20年以上、バドミントンの医科学委員長をしていたが、小学生をどのような形で育てていくかということで、指導者と色々ディスカッションしたりしました。やはり子どもというのは、我々大人とは別の生き物で、子どもの体の発育はどうなんだ、子どもの心はどうなんだ、そういったノウハウ・知識をしっかりと指導者が持たないと、大人と同じように扱うと、逆にスポーツが悪い方に行ってしまうことになりますので、この専門的な知識の中に、子どもの成長、心の成長、この二つはとても特殊なものであるという意識を持っていただければと思います。それでは、事務局にお返しします。

【竹沢部長】

本日は短い時間でありましたけれども、貴重なご意見を賜り誠にあり

がとうございます。部活動の地域移行であったり、競技力の向上であったり、やはり主体は県民の皆様であり、あるいは子どもたちであるということを忘れずに、しっかりと来年度の予算編成にできるだけ反映させていきたいと思っておりますので、何かあればご意見をお寄せいただければと思っております。本日はどうもありがとうございました。

(閉会)